○　はじめに

1　計画策定の趣旨

神奈川県政を取り巻く社会経済情勢は、人口構造の少子化や高齢化が進む中で、経済・文化・社会におけるグローバル化の拡大、県民のライフスタイルの変化や21世紀の社会に向けた志向の多様化など、様々な面で大きく変化しています。

21世紀の初頭には、神奈川の人口は減少局面へと転じ、経済も緩やかな成長となることが予測されるなど、かつて経験したことのない成熟した社会を迎えることになります。

こうした中で、これまで成長を支えてきた社会経済システムに変化の兆しがみえ、地方分権や規制緩和への取組みをきっかけとして、成熟社会に向けた新しい社会のしくみづくりが求められています。

このことから、21世紀を展望し「変化への挑戦」を基本に据え、新しい政策課題や時代ニーズに対応するため、新たな総合計画を策定しました。

また、新たに策定した総合計画を着実に推進し、重点的効果的な施策展開を図るため、厳しい財政状況を踏まえた行財政改革に取り組んでいきます。

2　計画の性格

新総合計画は、県民の皆様と一緒に神奈川の将来像を実現していくものであり、県民参加や市町村参加のプロセスを大切にしながら、神奈川らしい21世紀のビジョンに向けて、実行性のある分かりやすい計画づくりを進めてきました。

今後は、この計画を県政運営の総合的な指針とし、県民の皆様のご理解とご協力のもとに、施策を実行していきます。

3　計画の構成と期間

21世紀初頭(2015年度) を展望し、神奈川の将来像と進むべき方向、地域形成の方向などを「将来展望」としてまとめています。

1997年度を初年度として、概ね10か年間に実施する施策の目標と内容を、全県計画の「実行計画」として明らかにするとともに、地区行政センターの8つの区域を単位として「地区実行計画」をまとめています。

〔計画の目標年次と計画の役割〕

構　成	目標年次	計画の役割
将来展望	21世紀初頭 (2015年度)	神奈川の将来像と政策の基本方向
実行計画	2006年度 (10か年計画)	目標に即した施策の方向と主要施策
(事業計画)	2001年度 (5か年計画)	主要施策の構成事業の目標と内容
地区実行計画	2006年度 (10か年計画)	地区ごとの将来像とその実現に向けた地域プロジェクト

時代を切り拓(ひら)いてきた神奈川

緑の連なる丹沢から足柄の山々、青く点在する湖、肥沃(ひよく)な相模平野や足柄平野をつくりだしてきた相模川や酒匂川、三浦から多摩、武蔵野へと続く丘陵と台地、世界の船が行き交う東京湾と黒潮の洗う相模灘など、神奈川は、多彩な自然を県土の中に包み込み、地域にくらす人々の生活を多様なものにしています。

南に開けた海を持ち、東西の交通の要衝であった神奈川は、古来から人々の往来が活発だったこともあり、常に新しい時代の幕開けを告げる舞台として登場してきました。特に、幕末の開国から明治維新を経て、日本が西洋文明を積極的に取り入れ始めてからは、世界に開かれた窓として様々な人や情報を受け入れてきました。このことが、開放的で進取の気風に富む神奈川の県民性を育む土壌になっています。

東京に隣接し、早くから東京圏の一画を占めていた神奈川には、近代以降、全国から多くの人が移り住んできました。これらの人は、伝統的な地域社会と融合しながら、その一方で社会的束縛を離れ、個人の自由を重視する都市的な生活スタイルを形成してきました。そして、神奈川二世、三世が増える中で、自発的な地域ネットワークやボランティア活動など、神奈川らしい新たな都市的生活のスタイルをめざした取組みが始まっています。

歴史は、いたるところにその足跡をとどめています。古都鎌倉をはじめ、城下町の雰囲気を残す小田原、大山参りのにぎわいを伝える大山街道、古くからの湯治場としての箱根や湯河原、近代の港・ヨコハマと近代リゾートとしての湘南、自由民権運動の盛んだった明治時代の愛甲郡など、様々な歴史が地域を彩っています。

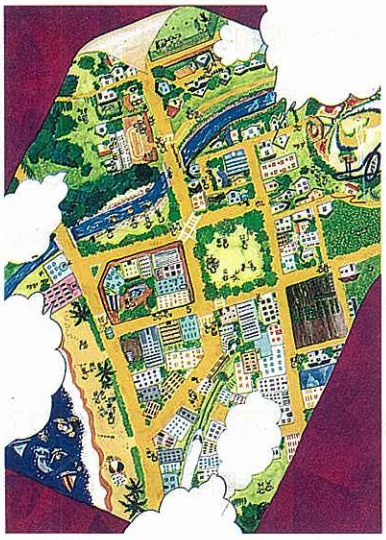
このような歴史と風土により、神奈川は、文学者や芸術家をはじめ、文学・芸術を愛する人々が多く居住する地域となっています。第二次世界大戦の傷痕(きずあと)の癒(い)えない昭和20年代に、神奈川では近代美術館や県立音楽堂が建設されるなど、文化の先進県としての礎(いしずえ)も早くからつくられてきました。

横浜開港以来、多数の県民が渡航するとともに、神奈川には多くの外国人が訪れ、くらしてきました。多様な外国文化とのふれあいの中で、神奈川には、異質な文化を受け入れる心の素地と外国人がくらしやすい生活環境が蓄積されてきました。国際性がますます求められる現在において、このことは、大きな神奈川の資産となっています。

また、神奈川県民の国際性は、市町村をはじめとする地域間の国際交流を進めてきただけでなく、民間レベルで多くの交流組織を生み出し、国際機関とも協力した活発な活動を展開しています。

産業技術は、現在の神奈川の先進性を代表するものの一つです。神奈川は、京浜工業地帯から内陸部へと、輸出立国をめざしてきた我が国の代表的な工業地域を形成してきました。

高い生産効率と優れた品質を誇る神奈川の生産技術の多くは、その原点を欧米からの技術導入によっています。今、科学技術でトップグループにいる神奈川では、多様な研究機関が世界の先端研究機関と交流し、国際的なものづくりネットワークの中で技術移転が進んでいます。



緑と花と笑顔に包まれた明るい未来

外を歩けば、となりに自然とふれあいがある。
そんな幸せな未来がきたらいいなぁ、と思って
この絵を描きました。

聖園女学院中学校　第3学年
吉井　　佑（よしい　ゆう）
（「21世紀（あす）の神奈川」絵と作文コンクールから）